

NEWS RELEASE

キャノンマーケティングジャパン株式会社

**企業向けストレージの販売開始でラインアップを強化
ウェスタンデジタルコーポレーション傘下2社と販売契約を締結**

キャノンマーケティングジャパン株式会社(代表取締役社長:坂田正弘、以下キャノン MJ)は、米国のウェスタンデジタルコーポレーション傘下のストレージメーカーである SANDISK INTERNATIONAL LTD.(以下 SanDisk) および株式会社 HGST ジャパン(代表取締役:高野公史、以下 HGST)と販売契約を締結しました。これにより、企業向けストレージ「SanDisk InfiniFlash シリーズ」と「HGST Active Archive System」の国内における販売を11月1日より開始します。

ウェスタンデジタルコーポレーション傘下の SanDisk と HGST は、コンシューマから企業向けの幅広いストレージのラインアップを取り揃えたストレージソリューションベンダーです。自社ブランドの商品ラインアップの拡充に加え、ストレージベンダーへの OEM 供給も行なっています。

キャノン MJ は、日本国内におけるトップリセラーとして2012年より主に静止画・動画などのデータ保存のための SanDisk 製フラッシュメモリ (SDCard/CFast など) を販売してきました。また、映像編集者向けの高精細なデータ編集用に HGST 製のストレージ (DAS/NAS) の拡販にも注力しています。

近年、企業向けストレージ市場はビッグデータやアナリティクスの拡大、映像データの4K/8Kへの移行により、大容量化への要望が高まっています。また、フラッシュメモリに保存した写真や動画などのデータもクラウドなどデータセンターの大規模ストレージに保存するケースも増えています。

こうした状況を受けて、高速なデータアクセスを可能にする「オールフラッシュ」と大容量化を低コストで実現した「オブジェクトストレージ」を大容量ストレージとして採用する企業が増えています。

このたび、キャノン MJ はこうした要望に応えるため、「SanDisk InfiniFlash シリーズ」と「HGST Active Archive System」の販売を開始し、コンシューマや中小規模向けのストレージに加え、企業向けストレージのラインアップを強化します。

「SanDisk InfiniFlash シリーズ」は高密度設計、高水準な省電力性能を備えたオールフラッシュストレージで、SDS(Software Defined Storage) 環境での利用に適しています。既に Lenovo 社製の「X86」サーバーと SDS ソフト「Nexenta」との動作検証を終えており、今後、同様に NEC などの IA サーバベンダーと SDS ソフトウェア (Nexenta 等) との動作検証も進めていく予定です。一方「HGST Active Archive System」は容量あたり低単価を実現するオブジェクトストレージで、データのアーカイブ化やクラウド利用などのニーズに適しています。

キャノン MJ は、このたびの販売契約により国内で初めて SanDisk と HGST の両ブランドの企業向けストレージを扱う一次販売店となります。また来年には、映像関連のストレージラインアップ強化のため、データの取り込みから編集、アーカイブまでのデジタルワークフローに最適なストレージ製品の国内販売も予定しています。今後は、コンシューマや中小企業向け映像編集者向けの販売を行う既存の販売網に加え、企業の大規模なストレージシステムの構築を行う Sier を中心に企業向けストレージを拡販することで2020年まで100億円を目指します。

商品名	ブランド	特 徴	価 格
InfiniFlash	SanDisk	高密度設計(容量あたりのスペース) 最高水準の省電力 柔軟にストレージソフトウェアの利用が可能	1,500万円～
ActiveArchiveSystem	HGST	容量あたりの低単価 - 最高レベル (1ラック 従来の5倍以上の密度 / 容量) 高信頼性ヘリウム封入 HDD の採用 (自社製、高密度、高耐久)	9,000万円～

-
- 報道関係者のお問い合わせ先：キャノンマーケティングジャパン株式会社
広報部 広報第一グループ 03-6719-9093(直通)
 - 一般の方のお問い合わせ先：キャノンマーケティングジャパン株式会社
情報通信ビジネス企画課 03-6719-9923
 - ストレージ ホームページ：http://cweb.canon.jp/storage/index.html
 - 報道関係者用ホームページ：e-pr.canon.jp
-

■ 特 長

1. SDS 環境に最適なフラッシュストレージ「SanDisk InfiniFlash」

- 最大512TB 搭載 / GB 単価 1 ドルを実現
- ストレージ管理ソフトを自由に選択可能
- 電力・冷却コスト 50%カット / 設置面積6分の1



< SanDisk InfiniFlash >

URL <https://www.sandisk.co.jp/business/datacenter/products/flash-systems/infiniflash>

2. 容量あたり単価を追求したオブジェクトストレージ 「HGST Active Archive System」

- 容量あたりの低単価 - 最高レベル
(1ラック 従来の5倍以上の密度 / 容量)
- 高信頼性ヘリウム封入 HDD の採用 (自社製、高密度、高耐久)
- Amazon S3 互換のオブジェクトストレージ



< HGST Active Archive System >

URL <https://www.hgst.com/ja/products/systems/hgst-active-archive-system>

■ エンドースメント

●レノボ・ジャパン株式会社 執行役員専務 安田 稔 様

レノボ・ジャパン株式会社は、キヤノンマーケティングジャパン株式会社様のソフトウェア・デファインド・ストレージ技術を適用したストレージ製品の発表を歓迎いたします。

キヤノンマーケティングジャパン様は、最先端の映像デバイスとフラッシュストレージ製品に取り組みされており、拡大する4K・8Kデータの編集や保存に適した高速フラッシュストレージ InfiniFlash と、レノボの高性能、高品質なサーバー製品 System x との組み合わせは、競争力のあるソリューションになると確信しております。

レノボ・ジャパンは、今後もキヤノンマーケティングジャパン様との協業を通じて、ソフトウェア・デファインド・ストレージの市場拡大に共に取り組んでまいります。

●日本電気株式会社 執行役員 石橋 研二 様

NEC は、キヤノンマーケティングジャパン様の『Software Defined Storage』向けの、ストレージ製品販売開始の発表を歓迎いたします。

キヤノンマーケティングジャパン様は、お客様に最適な ICT 基盤を、長年インテグレートされておりますが、この度、成長が期待されるビッグデータ等の処理に適した、高速で OPEN 環境のフラッシュストレージのお取扱いを開始されることで、更に先進なニーズに対応が可能となりました。

NEC の提供する国産ならではの安定性の高いサーバー製品と、キヤノンマーケティングジャパン様の幅広い SDS ラインアップが連携する事で、最先端技術活用への利便性は更に高まり、お客様のさまざまな運用課題の解決につなげていけるものと確信しております。NEC は、キヤノンマーケティングジャパン様との協業を通じて、多くのお客様が安心してご使用頂ける ICT 基盤のご提供に、引き続き対応してまいります。